



宮澤賢治の透明感を表す語の意味

宮澤賢治が1927年7月10日に制作した詩「あすこの田はねえ」（1082番）では、「透明なエネルギー」という表現が使われている。

青田の中でせわしく額の汗を拭いている子どもを描写して、「雲からも風からも／透明なエネルギーが／そのこどもにそそぎくだれ」（『新校本宮澤賢治全集』第4巻、詩（III）本文篇、275頁）と表現されている。

さらに、「きれいに透き通った風」や「あなたの透き通った本当の食べモノ」のように、「透き通った」という視覚表現も用いられている。

「注文の多い料理店」の序で、私たちは「きれいにすきとほった風をたべ、桃いろのうつくしい朝の日光をのむことができます」（第12巻、本文篇、7頁）、これらの小さな物語の幾つかが、「あなたのすきとほったほんたうのたべものになることを、どんなにねがふかわかりません」（ibid.）と語られる。

「透明な」や「透き通った」は、清浄さを表し、賢治が信じる永遠・究極の真理や仏の慈悲を暗示している。つまり、人は皆、仏の子で、あらゆる存在は平等で、真実であり、一人ひとりが自分の尊厳性に気づくことの大切さを暗示している。 (吉村耕治)

●環境色彩研究会研究発表会聴講募集

環境色彩研究会では、2023年度研究発表会を開催いたします。下記の要領で聴講者を募集しています。

環境色彩研究会会員の方は元より、日本色彩学会の会員以外の方でも、ご聴講いただけます。皆様のご参加をお待ちしています。

■日時：2024年2月17日（土）13：00～16：00

■聴講申込締切：2月15日（木）

■会場：ZOOMによりオンライン開催

■プログラム

●研究発表：「大規模団地における色彩設計の試み」：鈴木章子

●研究発表：「住宅建築と色彩 「miyazaki」をめぐって」：萩原京子

●環境色彩報告：「半世紀近い団地の今、我孫子ビレジ」：永田泰弘

■参加費 無料

■「聴講」希望の方は、下記フォームか、メールでお申込みください。

<https://forms.gle/aDAu5DKQnLmTX3Wd8>

メール：kyoko.hagiwara@jp.sunstar.com

メールタイトルは「2023年度研究発表会参加」とし、氏名などを明記のこと。（永田泰弘）

●マンションの色を決める

あらゆる分野において色から切り離せないのが、色を決めるということです。

新築のマンションを提案する時に、この色でプロデュースしようと決めることは必要不可欠になります。

そこで色の物差しを知ってるか知らないかでは、色の提案において、教える方と教わる方と共通の物差しを共有して意見交換できることが大切になります。

一つの例は、分譲マンションのプロデュースで、元フィギュアスケーター高橋大輔選手が青のマンションを2年前に発表しました。

写真で見る内装の色は、床から天井まで、マンセル値で5PB4/10近辺の鮮やかなブルーで塗装され、カーペットの色は明るいピンクでした。

それを見て、青は鎮静の色でイメージ的にはクールでモダンなイメージです。

そして元スケーターというネームバリューに焦点を当てたイメージ戦略で売り出されたのかと思いました。

個人的には冬の間、寒く感じないかなあ？とか思いましたが、マンションの内装なので、四季に応じインテリア・アイテムで変化させて調和を図ると良いでしょう。 (田森恭子)